



第69号
令和6年2月29日

発行所
宮城県伊具高等学校
同窓会
宮城県伊具郡丸森町雁歌51
TEL 0224-72-2020
URL <http://www.igukou.com>
発行責任者 橋浦 勉

印刷所
佐藤印刷株式会社



伊具高校同窓会会長 湯村 勇

コロナ、第五類に移行 同窓会も行動再開へ

伊具高校同窓会の皆さん、令和六年の新年をお迎えし、おめでとうございませう。そんな心境で日々を暮らして参りましたら、もう2月下旬になつてしまいました。

この1年間よろしくお願ひを申し上げます。

今年の年初めは、能登半島地震や日航機衝突事故などが起き、大変なスタートになつてしまいました。1日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

さて、伊具高校同窓会は新型コロナウイルス感染症の取り扱ひが5類に移行し、今まで自粛していたイベントが久しぶりに再開できるようになりました。中にはイベントが4年ぶりに開催というものもありました。ご同慶の至りです。私も各支部の総

会には努めてお邪魔し、お互いの交流を図りたいと思つて参ります。

その後、本同窓会も今までにない動きも出て参りますので2点ほどお知らせいたします。

校地内の桜の木の伐採

今年6月開始か

第1点目は伊具高校校地の桜並木の1部伐採です。令和元年10月東日本台風により校地の南側を流れる新川が大きな被害に遭ひ、国土交通省東北地方整備局宮城南部復興事務所のおかげで既に一部の工事は終了。しかし、その後も更に完全な工事が残つており、校地に植えられている桜並木の内17本を伐採し周辺の環境を整備することになったのです。工

事は今年6月に始まる予定です。私が高校時代、応援練習はこの桜並木の周辺で先輩から厳しく指導を受けた場。思ひ出の桜の木が無くなることは寂しいことですが、事情が事情ですので、仕方ないと思ひます。今年の花見が最後となるかもしれませう。皆さんは悔ひのないように春には桜並木に足を運んでくださいな。

ドローン 同窓会も応援

次の点はドローンの話です。ドローンとは操縦士が乗らない無人飛行機と言えます。昨年の本同窓会報第68号でも掲載した通りですが、その後、その後もそれほど変わった点は無く、大きい動きはありません。ただ、学校や生徒の皆さんは各自ドローンの勉強や資格取得などについては心得ているよすです。仙北地区のある高校では自力で着々進めているよすがが・・・。我が同窓会でもその時が来れば皆さんと協議し、援助できる範囲で頑張つてみたいと思つております。

今年の干支は「竜」。勢いよく上に登る龍のような暮らしができるよう願つて参ります。結びに、同窓会皆様方の益々のご



伊具高校の校歌の作曲者 古関裕而先生の像 (福島駅東口前)



今年6月に伐採予定の伊具高校内の桜並木 (校地南側)

隆盛とご多幸を心からお祈り申し上げます。ご挨拶いたします。



「地域から学び、地域と共に学ぶ」

宮城県伊具高等学校 校長 齋藤 隆

同窓生の皆様には、常日頃より本校の教育活動に對しまして、ご理解並びにご支援を賜り、心より感謝申し上げます。昨年の4月に伊具高等学校に着任し、早いものでまもなく1年が経過いたします。故郷である丸森町で、後輩となる地元の子供たちを育てていける機会に恵まれたことに感謝しながら、日々充実した生活を送っております。子供の頃に過ごした地域商店などは若干変わりましたが、朝に小学生が元気に登校する姿や住民の方々と小中学校の先生方が登校指導にあたる姿を眺めて、自分の小中学生の頃を思い出し、自分自身が多くの方々に育てていただいていたことに改めて感謝しています。

〈今年度を振り返って〉

今年度は5月にコロナ感染症が5類感染症に移行され、これまでの行動規制が大きく緩和されました。昨年度までは殆どの学校行事で感染症対策を徹底して行い、教育活動を継続してきましたが、今年度はマスク着用も個人の判断となり、やや安心した気持ちで多くの行事を実施することができました。地域連携の取組

では、学習活動や学校行事において、企業や保護者の皆様に多くのご協力をいただき充実した教育活動を実践することができました。

4月の入学式では54名の新入生を迎え入れ、2年次生46名、3年次生58名の全校生徒158名でスタートすることができました。地域の少子化に伴い、本校でも入学者数が減少しています。現在は県内どの地域からでも入学できますが、以前のように多くの入学生が集まることは難しい状況です。今後も総合学科ならではの魅力を中学生に発信し、帳面上での学びではない、生きた学びを体得できる学校であることを多くの方々に伝え、本校で学びたいと思う生徒を増やしていきたいと思えます。生徒たちは、1クラス20名弱と少ない人数ではありますが、教職員が生徒一人一人に時間をかけて丁寧な指導しており、学びの場として最高の環境であると前向きに捉えています。

〈重点的な取り組み〉

雁歌学報の第1号に、教育目標達成のために力を入れて取り組むこととして、「①丸森町・角田市の現在

の状況を視野に入れ、本校の教育活動をを通して地域社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を丸森町・角田市と共有していくこと。

②これからの地域を創り出していく生徒たちが、地域と関わり合い、人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを教育課程において明確化し育んでいくこと。

③教育課程の実施にあたり、地域の人的・物的資源を活用し、義務教育・社会教育（生涯学習）との連携を図り、本校の教育活動を学校内に閉じずに、その目指すところを地域社会と共有・連携しながら実現すること。」と記載しました。地域連携を教育活動の中心に据え、校外の方々にご協力をいただきながら学びを進めていきます。今年度は、農学系列の大張尻厩棚田の安全管理や地域での植栽活動、機械系列のごみステーション作成と寄贈、情報系列では飲食店とコラボした商品開発、福祉系列では竹谷地区民との防災さんぽなどを実施しました。他にも多くの取組で企業や市町の皆さまにご協力をいただき、その活動が新聞や広報に取り上げられたことで多くの方に生徒の活躍を伝えることができました。次年度以降も地域から学び、地域と共に学ぶ活動を推進する予定です。引き続き、ご協力をお願い

いたします。

〈厚労省・文科省から表彰〉

8月に本校が20年以上にわたり学校献血に協力している学校として、厚生労働大臣より感謝状を授与されました。多くの同窓生が献血に協力していただいた結果であり、現在まで献血活動が引き継がれています。また、1月には地域産業界と連携・協働してキャリア教育を推進する学校として、文部科学大臣より表彰状を授与されました。地域連携の様々な取組を高く評価していただけたものであり、同窓生をはじめとする地域の方々のご協力に心より感謝申し上げます。

〈日々の出来事〉伊具高校ブログ

学校のホームページを見たことがありますか。学校行事や授業で取り組んだことなど、時間を空けずに「日々の出来事」としてホームページに掲載しています。母校の生徒がどんな勉強をしているのか、今どのような状況なのか、本校に興味のある方々に色々な情報を発信しています。是非ご覧いただければと存じます。

結びに、これからも地域と連携した多くの取組と情報発信を実施して参りますので、同窓生の皆様には益々のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年度総会報告

8月6日(日)午後4時〜 あぶくま荘

◎協議事項

- 一 令和4年度事業・会計報告ならびに承認について
- 二 令和5年度事業計画・予算案承認について
- 三 その他

◎懇親会

本年度の総会では、昨年度の事業及び会計決算報告、監査報告、本年度事業計画及び会計予算案が審議され、各議題共に原案通り可決しました。また、役員改選の時期となりましたが、本部役員全員の留任の原案を評議員の皆様にお認め頂きました。

本年度は数年ぶりにあぶくま荘を会場に参加者を限定しない形式で総会と懇親会を実施いたしました。

湯村勇会長からは母校の動きなどについて挨拶があり、その後、齋藤隆校長から最近の母校の情勢等を交えながら挨拶を頂戴しました。

また、昨年度の総会で購入を認めていただいた競技用ドローンについて、実際に動かしている様子を映像で紹介しました。



支部だより

角田支部活動報告

角田支部

鈴木善一

◎角田支部第1回役員会
 月日…令和5年4月23日

場所…ゆのむら事務所 出席者12名
 内容…○令和4年度会計監査○角田支部第9回総会について…総会

は、今年度もコロナ感染拡大防止のため資料配布で総会に代えるものとした。○その他…秋頃に懇親会を兼ねて支部役員研修旅行開催の案が上がった。

◎角田支部第2回役員会
 月日…令和5年7月22日

場所…ゆのむら事務所 出席者10名
 内容…○本部総会の出席者の報告(参加者の確認と移動方法について)○支部役員研修旅行(研修内容について検討)

◎本部同窓会総会
 月日…令和5年8月7日

場所…あぶくま荘
 ◎角田支部から13名出席

◎角田支部第3回役員会
 月日…令和5年10月21日

場所…ゆのむら事務所 出席者8名

内容…○支部役員研修旅行(旅行日程 日時 目的の決定)

◎役員研修旅行

月日…令和5年11月25日〜26日
 参加者11名

第1日目…角田駅集合。車2台で伊具高校へ移動。前角田支部長・第5代同窓会長の故佐藤一馬氏の庭から寄贈し、創立90周年記念事業として植樹した「モミの木」の前で、当時、移植に携わった会員を含む全員で写真を撮影した。その後、阿武隈川船下りを楽しみながら、紅葉・芋煮を囲んで親睦を図った。角田駅に戻り阿武隈急行で飯坂温泉に向かった。懇親会・二次会・三次会と夜遅くまで楽しく親睦を深めた。

第2日目…飯坂線で福島駅に異動し、福島駅東口前にある母校校歌の作曲者である古関裕而氏の銅像前で記念撮影をし、お土産を購入して角田駅に向かった。駅構内で反省会を行いながら、昼食をとり無事解散した。

角田支部の誇りは、伊具高校の校訓「質実剛健・穩健着実」のものと母校を愛し、感謝と深い敬愛尊重を重んじて社会に大きく貢献していることです。



古関裕而記念写真



阿武隈ライン



モミの木

丸森支部だより

丸森支部

小野 正彦

母と云う漢字を使った表現があります。母国、母胎、母党、母乳、母港、母船、母石など、そして母校「母」と云う漢字から何故か「なつかしさ」と「やさしさ」を感じ取ることができま

私。私の母校は伊具高校です。昭和38年までは伊具農蚕高等学校でした。昭和28年、母校の伊具農蚕高等学校に入学、雁歌の里の学舎は瓦葺の木造校舎でした。雁歌の里にびったりの校舎で思う存分の高校生活を送ることができました。これも偏に指導していただいた先生方のお陰だったと感謝しております。昭和36年母校の教員に採用され、以来38年間母校一筋、後輩生徒の指導に当たってきました。着任後6年間、週2回当時の定時制分校、大内、筆甫、大張分校に仙南バスト国鉄バスで通いました。大張分校と筆甫分校では宿直があり実に退屈な夜の勤務でした。昭和45年、47年にそれぞれの分校が生徒募集を停止し定時制分校が幕を閉じました。

昭和36年、採用の条件に、野球部の監督にと当時の伊藤力三校長先生の

に言われ、20年間、監督として部員の指導に当たってきました。3年間、グラウンドで汗を流した何人かは、現在、町の中核として活躍しています。私も86歳になりました。耳が遠く、記憶力が弱く老化が進んでいきます。最後は趣味の川柳を一つ

「この頃は
忘れたことを 忘れてる」
以上

若人よ 農業生産に誇りを持とう

農業科19回 小斎支部

齋藤 正三

4年前の3月小斎支部長さんより久しぶりに電話を頂き「毎日、何をしているの？」との内容なので、年齢相応の日々を過ごしていると答えると学校農場の動植物管理の仕事に欠員が生じたので手伝ってくれないかとの依頼を頂いた。

正直私は卒業以来、母校の行事・同窓会行事にはご無沙汰をしていたので、申し訳なささと恥ずかしさと懐かしさが一気に込み上げてきたのを覚えていきます。

出勤初日、校門を通り玄関前には校訓である「質実剛健・穩健着実」の垂れ幕、初代校長本間先生の銅像、当時の建物は旧体育館がそのまま

あり約60年前にタイムスリップしたようで涙が込み上げてきたのを思い出しました。

仕事の内容は1月4日から5日、土日祝日に主に温室や畑の管理です。楽しくやらせて頂いております。

私は卒業と同時に一生農業で生活をするんだとの強い意志で就農致しましたが、就農3年目頃から国による米の生産調整の方針が示されました。零細農家では生活が難しくなりましたが、農業の夢は捨てきれず地元J.Aに就職して以来46年間勤めさせて頂き、現在も少ないながらも米と野菜を栽培しております。

昭和40年代中頃までは米は貴重な物でしたが、時代の流れにより減反政策、生産資材の高騰により専業農家は大変厳しい現状です。我が国の食料自給率は約38%弱です。

もし外国より食料が入ってこなくなれば62%の国民が食糧不足に陥ります。

今こそ母校農業関係の先生方・生徒の皆様は自分達は日本国民の食料と命を守っているんだという誇りを胸に頑張ってください。



卒業アルバムから思い出を顧みる

筆甫支部

池田 常博

私は、昭和44年4月に、伊具高校の農業科に入学しました。

今回の寄稿にあたり、数十年ぶりに卒業アルバムを開くことになりました。そこにはお世話になった先生方、そして、初々しい同級生の顔写真が目に入り、最初に農業科目の事や、実習に関する思い出が蘇りました。除北の桑園で栽桑の実習に汗を流したことや、根子入で泊りを通して採卵養鶏に関する実習をしたこと。農業クラブの本校代表が研修成果を発表するための図表を、レタリング好きの自分にも声がかかり級友2・3名で、先生と共に泊りがけで作成したことなど。勿論その他、数多くの思い出も蘇りました。

しかし、アルバムの末尾に掲載されていた「71ニュース特報」で目にしたのは暗い文言でした。「米の生産調整で東北は50万トンとなり、昨年比2倍強。」このことは、基幹作物のコメ作りに暗い影を落とすことになりました。コメ作りをはじめとし農業科目を専攻しても就職したクラスメイトが多く、専業での就農者はかなり少数だったと記憶して

います。卒業後、コメ作りも含む複合経営を目指した私も、後者と認識していますが、手腕の足りなさを自覚することになり、中途、勤めの道を選択することになりました。

話は変わります。卒業後、長い年月が経過した中で、令和元年東日本台風で被災して、神明北住宅に同居するという大きな出来事がありました。以前、この付近は母校で実習した桑園があった場所。「何という巡り合わせだろうか。」と複雑な気持ちになります。

また、休耕田やいくらか耕作していた水田も台風の被害に遭いました。が、昨年、復旧しました。やはり、この年齢になってもコメ作りに愛着があります。今年3月のリタイヤを機に、母校を卒業したのちに農業経営を志したあの頃を懐かしみ、できる範囲で、水田の作付けや野菜作りをしてみようと思っています。

そんな、自分を育んでくれた我が母校、伊具高校。これからも、移り変わるであろう地域社会の中で、益々発展されますことを心より願っています。



雁歌の誉 総合学科3回生

柴田農林高等学校 教諭 佐藤 彰子

「阿武隈川は洋々と」幼い頃から幾度となく、父が口ずさむのを聞いてきました。両親共に伊具高校の卒業生であり、折に触れて話す高校時代のエピソードや、街を颯爽と歩く制服姿の高校生を見て、いずれ自分も伊具高校に入りたいとほんやりと考えるようになりました。中学校を卒業後、自宅から比較的近く、部活動の大会等で声をかけてくださった先生方もいらっしゃるから、希望進路先として伊具高校を選択しました。

入学した当初は、「勉強も部活動も頑張つて、取得できる資格はたくさん取つて、地元企業に就職して、好きな卓球を続けていけるならさつと幸せだろうな」と、臆げで都合の良い将来像を描いていました。

しかし、佐々木修規(当時)教頭先生との出会いが、私の人生にとって大きな岐路となりました。

「大学つき、行かないよりは行った方がいいよね。どう?行ってみない?」

その修規先生の言葉に、自分の進路は就職するものとはばかり考えていた自分の前に、突如新しい道が出現した気がしました。その後、修規先生が担当する農業の科目を履修したことをきっかけに、農業クラブの各種競技大会に出場する機会を頂き、発表や競技会に向けて練習を重ねる中で部活動とはまた異なった緊張感や達成感を味わうことができました。校外の大

会に出場することで、他校の農業クラブ員の生徒や先生方と交流する機会を頂いたことから、自分にとって農業クラブでの経験が農業教員を志すにあたって大きなきっかけとなりました。また、当時は機械警備でなかったこともあり、部活動が終わった後、勤務時間外であるにもかかわらず、農業管理室で夜遅くまで受験勉強を教えたいといったこと、農業クラブの各種競技に出場するため意見発表や農業情報処理競技の指導をして頂いたことは本当に感謝してもきれません。

思えば伊具高校で過ごした3年間は、私にとって人生を左右するような「先生方との出会い」の連続でした。今思い返しても、あの、生徒を指導する際の情熱や情の深さ、私が一歩踏み出すのを躊躇している時にそと背を押してくれた温かさ、時に厳しくはありましたが、最後まで生徒を信じ抜いて指導してくださる姿は本当に心強く感じました。今、教員となり、教壇に立つようになった今も、その大きな背中には私の道標となっています。

大学卒業後、母校に1年間講師として採用して頂いた際には、道徳教育特別推進のモデル指定事業校であったこともあり、本当に貴重な経験を多く積ませて頂きました。立場上「先生」と呼ばれども、教師としての覚悟も振る舞いも未熟だった私に対し、周りの先生方は「教師とはどうあるべきなのか」「生徒にどうかかわっていくべきなのか」を時に言葉で、時に行動で示してくださいました。「学生」から「先生」へと立場が変わり、生徒の時には全くと言っていいほど見えていなかったその姿に、

いかに学生時代の自分の視野が狭かったのか、想像力が乏しかったのかと高校時代の自分の行いを反省することも多くありました。また、在学中にお世話になった先生方も多く、恩師から「先生」と呼ばれることになかなか慣れず、何とも言えないむずむずした思いを抱いたことも、10年以上経った今は良い思い出となりました。

翌年教員採用試験に合格し、伊具高校での勤務最終日に挨拶を終えると、一緒に働いていた農場の先生方が万歳三唱で自分を送り出してくださいました。先生方にとってはごく当たり前のことであつたのかも知れませんが、しかし、その人としての温かさに触れ、エールに背中を押された私は、学生としても、教員としても伊具高校の一員でいられたことがとても誇らしく、本当に幸せ者なのだと思ふようになりました。

伊具高校で過ごした3年+1年間は、心が折れそうな時、自分の弱さに膝を折りそうな時にいつも心を奮い立たせてくれました。いつの日か、また母校に勤務できる時が来たのなら、学生時代に、そして初めての教員人生1年目に頂いたご恩を少しでも返せるよう、全力で励みたいと思います。最後になりましたが、学生時代にご指導いただきました佐々木修規先生をはじめ、諸先生方、大学卒業後、同僚としてお世話になりました先生方、この場をお借りして深く御礼申し上げます。また、このような機会を頂きました同窓会の皆様方、担当の橋浦先生に卒業生として心から感謝を申し上げ、筆をおきたいと思ひます。本当にありがとうございます。

系列紹介

農学系列

農学系列では農業の六次産業化「1次産業の農業」×「2次産業の加工」×「3次産業の販売」に対応した人材の育成を目指して、日々の学習や実習を行っています。

本年度は、昨年度コロナ禍で自粛していた活動を徐々に再開しながらも、密を避けるなどバランスを図りながらの学習実践を行った年度でした。

春の苗販売では、広報PRをせず開催し、コロナ禍前よりもお客様は少なくなりましたが、生徒、教職員ともに以前の状況に戻りつつある手ごたえを感じられた行事となりました。来年度は時期をお知らせして開催できればと考えております。

夏にかけては、野菜の販売実習や大河原農業改良普及センターの方のお話を聞く機会もあり、地域に出て、お客様の反応を直に感じたり、地域の農業の現状や新規就農について知ったりできました。

秋にかけては、数年前から続く、大張沢尻の棚田で米作りを体験させていただきました。本校OBの大槻

さん指導の下、2年生の生徒5名が棚田での米作りに挑戦しました。急斜面にできた棚田に悪戦苦闘しながら一生懸命取り組み姿は、生徒の成長の糧となりました。また、河北新報等の取材を受け、学習活動のアピールにもなりました。

花のたすきプロジェクトでは町内の館矢間小学校やポケットパークに出向き、児童に対してプランターへの草花苗の植栽の指導や地域の花壇の緑化活動も実施し、交流も行いました。

こうした活動の一環で、農業クラブ活動では家畜審査競技で最優秀賞を獲得したり意見発表やプロジェクト発表では奨励賞、本年度は東北連盟大会のクラブ活動紹介に出場し優秀賞を受賞したりしました。

今後も、食と農のオールラウンドを目指して、少数精鋭で多種多彩な活動に取り組み全人的な成長につなげていきたいと思っておりますので、ご期待ください。

機械系列

本系列では、近年、資格に産業用ロボット特別教育、無人航空機従事者試験3級（ドローン検定）、実習ではモナカエデュケーションを活用

したプログラミング実習を実施しています。これは、激しく変動する社会情勢に合わせた資格や実習内容であり、これからもVUCAの時代に対応し、生徒や地域の実態、社会の実情を踏まえ、常に教育課程の改善に努めていきたいと考えています。

情報教育を強化させていくと同時に、「ものづくりは人づくり」を標榜する機械系列として、「伊具高の力」プロジェクトを実施し、生徒の人間力の向上に努めています。今年度は、地域へのゴミ集積所の寄贈、ふるさと納

税の返礼品製作、中学校への出前授業、外部講師を招聘し、溶接作業でのB BQコンロ製作、旋盤作業でのコマ製作、板金作業でのちりとり

の製作、フライス盤作業でのサイコロ製作等のものづくり、また、5S講習会、QC講習会を実施しました。

最後に、本系列では三年間で、ものづくりの基礎や社会人基礎力を身に付けていきます。今年度の三年



次生も伊具高校での様々な学校行事、機械系列での学びを通して成長したと感じています。また、9割近くの生徒が地元企業から内定を頂くことができました。今後地元を支えていく人材になつてくれると考えています。昨今、少子化、人口減少といった社会問題は、加

速度的に状況が悪化しているように感じます。そして地域はその課題を結果として受け止めざるを得ない状況に地域の疲弊を感じます。

伊具高校は、この全国的に生じている課題にゲームチェンジャー的要素になり得るのではないかと感じています。生徒、地域企業、教員が丸で取り組む「ものづくり」が作り出す製品が、地域との架け橋、地域の未来への架け橋となつてくれることを願っています。

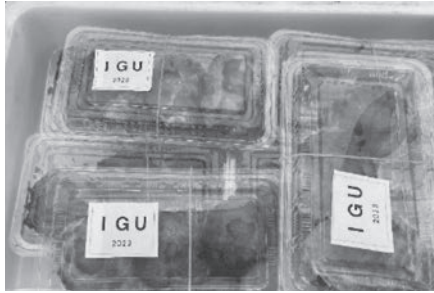


情報系列

情報系列では、ビジネスの諸活動の基礎・基本を身に付けた上で、地域社会で実際に役立つ専門的な知識や技術を学習し、即戦力として地域に貢献できる人材育成を目指しています。また、職業人として求められる協調性や社会性、コミュニケーション能力について育成に努めています。令和5年度は1年次生9名、2年次生7名、3年次生20名が授業に取り組んでおります。

授業においては商業に関する各教科を学び、各種検定取得も目標としています。情報処理検定・簿記検定・ビジネス計算実務検定などがあり、検定合格に向けて日々学習に取り組んでおります。3年次の課題学習においては、それらの教科を生かして地域連携事業に取り組みます。

本年度、3年次の課題学習では、3年間の集大成として地元企業との商品開発と、みやぎふるさとCM制作を行



いました。商品開発は地元企業と同で実施し、伊具高祭で販売しました。発案・試作品検討から当日の販売・アンケートまで一連の流れの中で、生徒達は協調性・責任感を持って研究に取り組み、接客マナーやコンピュータの技術など、3年間の学習内容を十分に生かすことができました。伊具高祭当日は多くの地域の方に来て頂き、商品もあっという間に完売し、生徒達はやりがいと達成感を得ることができました。ふるさとCMについては、応募にはいたりませんでした。地域の方々に取材をするため、予定を立て、アポイントメントを取って取材に行きました。協力して頂いた企業の皆様、ありがとうございました。



次から参加し、年次の垣根を越えて新聞発行に取り組みました。総合司会はプロのアナウンサーの指導を受け、今年度も伝統の行事の中心を担うことができました。また、テレビの情報番組においてPR活動を実施し、幅広くイベントのアピールができました。

今後も、多くの活動を通して、地域産業を担う人材として、人間性豊かな職業人の育成を育成するために、万全のサポートを行っていききたいと思っております。

福祉系列

福祉系列は専門教科「福祉」「家庭」の科目が充実しており、福祉・家政系への就職または進学を目指して、日々学習に取り組んでいます。今年度は1年次10名、2年次10名、3年次14名、合計34名の生徒が所属していますが、特に実技を伴う場面では、進んで声を掛け合い、準備・片付けを行うなどの姿が見られ、互いに助け合い、認め合う雰囲気が醸成されています。

福祉系列を選択している生徒の多くは、将来介護職として働く上で必要な基礎知識・技術を修得することができる「介護職員初任者研修」の

取得を目指しています。今年度も2年間基礎を積み上げてきた3年次生が、夏季休業中に地域の介護施設「仙南ジェロントピア」で介護実習をさせていただきました。昨年度までのコロナ禍における規制が緩和されたことにより、利用者様と直接触れ合う機会を多く設けていただきました。学校だけでは学ぶことができない入浴や排泄、食事介助の補助も体験させていただき、生徒たちにとって大変有意義な時間となりました。生徒たちからは「現場の視点はとても参考になった」「より現場を意識して実技の練習をやっていたい」との声があり、実践から学ぶことの大切さを実感できたようです。

また、福祉系列は令和元年東日本台風の経験から、これまで継続して防災について学び、活動しています。今年度は9月に丸森町竹谷地区区長、民生委員の方をはじめ、10名の地区住民の皆様と「防災さんぽ」を実施しました。竹谷地区から本校までの移動



経路や、危険箇所を一緒に確認しながら歩きましたが、生徒も住民の方も歩いてみることで気付くことがあり、貴重な体験となりました。本校到着後には、本校にある備品倉庫の中の確認を行い、避難所で使用するテントと段ボールベツトの設営を生徒が説明させていたいただきました。その後、住民・生徒と一緒に設営・撤収の体験を行いました。住民の皆様には「高校生と一緒に活動できて嬉しい」「このような機会がまたあるといい」などの言葉をかけていただき、生徒にとって活動の励みになりました。



地域に学び、地域に還元することが生徒の学びをより深めることにつながると考えております。それぞれの目標に向かって、一生懸命取り組んでいる生徒たちですので、同窓会の皆様には、今後とも様々な場面で御協力いただければ幸いです。

生徒の活躍

- ◎書道部
第45回ふれあい書道展
奨励賞 2年 只野 玖玲亜
- ◎陸上部
仙南総合体育大会陸上競技
男子1000m
第3位 2年 八島 遙斗
男子三段跳
第2位 2年 大内 蓮
女子走幅跳
第3位 2年 菊地 愛佳
女子4×100mリレー
- ◎仙南新人陸上競技大会
男子2000m
第3位 2年 八島 遙斗
男子走幅跳
第3位 2年 大内 蓮
男子三段跳
第1位 2年 大内 蓮
- ◎弓道部
仙南総合体育大会 弓道競技
男子個人
第5位 2年 佐藤 征哉
板橋慶教記念第47回岩沼市武道大会
高校男子
優勝 2年 佐藤 征哉
高校男子団体 準優勝
仙南新人弓道大会
男子個人
第1位 2年 佐藤 征哉
男子団体 第3位
- ◎農業クラブ
県連家畜審査競技会
乳用牛の部団体
奨励賞
県連意見発表会
Ⅲ類
奨励賞 2年 武者 彩乃
肉用牛の部団体
奨励賞
- ◎肉用牛の部個人
肉用牛の部個人
最優秀賞 2年 八島 遥斗
東北連盟大会クラブ活動紹介発表
優秀賞
県連プロジェクト発表会
Ⅲ類資源活用・地域振興
奨励賞
第4回沢尻棚田写真コンテスト
新人賞 2年 石塚 清玲
- ◎美術部
第64回仙南高等学校美術展
奨励賞 3年 酒井 涼
- ◎バスケットボール部
仙南総合体育大会バスケットボール競技
女子 第3位
仙南地区新人大会 バスケットボール
女子 第3位
- ◎吹奏楽部
第66回宮城県吹奏楽コンクール予選
銅賞
宮城県アンサンブルコンテスト予選 仙南地区大会
銅賞
- ◎写真部
銅賞
仙南文連 仙南支部 仙南高校写真展
銅賞 3年 菊地 凜花
3年 荒川 恵
- ◎柔道部
仙南地区柔道新人大会
男子団体
第3位 2年 小形 樹
仙南地区柔道新人大会
73kg級
第2位 2年 小形 樹
- ◎科学部
宮城県高等学校生徒理科研究発表会
優秀賞

編集後記

本年度はコロナの五類移行に伴い、同窓会総会をあぶくま荘で開催いたしました。同窓生の皆様におかれましては、数年ぶりに旧交を温める機会を楽しんでいただけたかと思えます。来年度以降の本部や各支部の同窓会行事についても従前の形に戻ることが想定されます。これまで以上に母校の発展にご協力を頂きますようお願い申し上げます。また、本会報にご寄稿いただきました会員の皆様には厚く御礼申し上げます。

同窓会事務局

橋浦 勉
鷺尾 静香

